

3 ゲストティーチャー派遣（教育普及・支援活動）

※ 博学連携の具体例として、熊本博物館は平成 26 年度から「学校教育支援事業」に取り組んでいます。

この事業は、【博物館が有する価値ある収蔵資料や学芸員・研究員の専門知識および技能を学校での学習指導（授業）に活用し、子どもたちの学習意欲や問題解決能力を高めるとともに、主体的に生きる力・生き抜く力の育成を支援する】ために行います。

この事業の中核は、**学芸員・研究員を小学校の理科・社会を中心にゲストティーチャーとして派遣**することで（総合的な学習の時間や、その他の教科等での派遣も一部あり）、先生方の指導を補佐しながら、学習内容・学習指導の充実を図り、教育効果を高めることを目指します。

次のページから熊本博物館作成の「小学校社会科・理科年間指導計画」「各学年単元一覧表」「学習内容説明シート」を載せていますが、その中に「学習セット（S）」「学習プログラム（P）」という表記があります。

「学習セット」は 1 単位時間の一部分（10 分～30 分程度）を学芸員・研究員が主たる指導者として学習支援にあたる形態を意味し、「学習プログラム」は 1 単位時間における展開のほぼ全てを学芸員・研究員が担う（先生方には補佐をお願いする）形態を指します。

基本的に、授業は先生方が主導されるものですから、提供できる可能性のある「学習内容」例は、プログラムよりセットの方が多くなっています。

平成 26～27 年度にかけての 2 年間はモデル校（2 校）にて試行実践を行った結果、学習意欲・興味・関心の向上等、概ね高評価を得ることができました。平成 28 年度からは市内の全ての小学校を対象に派遣授業を展開します。派遣授業を通した多くの学校との交流を楽しみにしています。

この「プログラム集」に例示した内容は、小学校だけでなく中学校における授業展開にも活かせるものだと考えます。ご一読・ご活用くだされば幸いです。

※ 「問い合わせ先」は、裏表紙内側に記載しております。